



# よい子 つよい子 できる子

新井小学校たより 平成27年度11月号 平成27年11月19日  
HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

## 「若竹フェスティバル」ありがとうございました。そして…

校長 金子 博信

先般開催しました「若竹フェスティバル」では、多くの保護者・地域の皆様方からご来場いただき、フェスティバルを盛り上げていただきましてありがとうございました。

今年のフェスティバルは、統合後初めてのフェスティバルということもあって、子どもたちも職員もみんなで力を合わせて成功させようと頑張ってくれました。とりわけ、今年は発表等の出来映えよりも子どもたちが本番への思いをもって、その達成に向けて主体的に取り組んでいけるよう、事前に各学級の代表者による代表委員会を開いて話し合い「みんなが主役!! 夢をいだいて 絆をふかめよう」というスローガンを決定しました。結果は、皆様方からご覧いただいたとおり、まさにスローガンに相応しく、子どもたち一人一人が主役になって、感動を分かち合い、絆が深まった「若竹フェスティバル」となりました。

学校行事は、それを行うこと自体が目的ではなく、その行事を行うことで、一人一人の子どもたちが、自分自身の技能を高めたり、友だちや先生とのコミュニケーションを深めたりして、共に達成感や成就感を味わい、人として大きく成長することが一番のねらいです。今年は大運動会にしる、若竹フェスティバルにしる、子どもたちがこうしたねらいを自覚して、統合した仲間と共に、その取組の中で絆を深めてきてくれたことが何よりも嬉しいです。

学校は、各教科の勉強のほか、子どもたちが集団生活を通して様々なことを学ぶ場です。子どもたちは、好むと好まざるとに関わらず多くの友だちや先生方と出会い共に過ごします。様々な性格や個性をもった人たちの集団ですから、中には気の合う人もいれば、そうでない人もいます。時には、考え方や意見が食い違いぶつかり合ったり、思い通りにならずイライラしたりすることもあります。いやなことでも我慢してやらなければならないこともあるでしょう。とりわけ、今年は統合があったので子どもたちはこのような思いをすることが多かったのではないかと思います。しかし、子どもたちは、学校生活を送る中でそれらの様々な人々と関わり合い、触れ合うことを通して、互いに折り合いを付けながら上手に付き合い、多くのことを学んでくれています。

今日も音楽朝会があり、音楽委員会の子どものリードで全校の子どもたちがゲームを行い交流を深めました。子どもたちが、皆仲良くいきいき活動する姿は見ていると微笑ましく、清々しい気持ちにさせられます。これは、縦割り班の班長を務めてくれている6年生の子どもたちが、下級生を分け隔てなく上手に世話をしてくれているお陰でもあります。時には、下級生のわがままな態度に腹が立つこともあるでしょう。しかし、それを我慢したり、上手にいなしたりしながら面倒を見てくれている姿を見ているとさすがだなあと感じます。若竹フェスティバルの若竹キッズトライア広場でのファッションショーの衣装づくりの際は、特にそう思いました。こうした6年生の子どもたちの寛容で優しい姿勢が、全校の子どもたちの温かな雰囲気を作り上げてくれているのだろうと感じます。今はフェスティバルも終えて、普段どおりの学校生活に戻っていますが、子どもたちはフェスティバルを経験して、互いの人間関係が更に深まったように感じます。

小出雲の賀茂神社の入口に「一視同仁」という石碑が建っています。先般、ある研修会に参加したときに、この石碑のお話をお聞きしました。この「一視同仁」という言葉の意味は、全ての人を差別することなく平等に慈しみ、愛することを表す言葉で、中国の唐の時代に韓愈（カンユ：768～824年）という人が書いた「原人」という文書の中に出てくるそうです。この「原人」という標題は、「人（の本質）を原（たず）ねる」という意味があるのだそうです。

かつて賀茂神社の氏子の方々が、出身や身分等に関わらず、どんな人であっても平等に、寛容に接することを大切に、そうした願いを込めてこの石碑を建立したのでしょう。私は日頃、賀茂神社の前をよく通るのですが、この話をお聞きするまでは、こうした石碑が建っていることも、この言葉の意味も知らずに通り過ぎていましたが、このお話を契機に意識して見るようになりました。かつての人々がこのような願いをもってこの地で生活してきたのだなあと思うと同時に、新井小の子どもたちが寛容で皆仲良く接している姿を見ていて、この子らの中にも、こうした願いが脈々と受け継がれてきているのだろうなあと感じて、たいへん嬉しくなります。改めて「新井小の職員でよかったなあ」としみじみ思う今日この頃です。

若竹フェスティバル 2015.10.25



全校合唱



1年生発表



2年生発表



3年生発表



4年生発表



5年生発表



6年生発表



合唱部発表



吹奏楽部発表



ダンスクラブ児童による発表



縦割り班による衣装創作



あ〜らいい☆秋の大ファッションショー

多数のご来場、誠にありがとうございました。



モデル児童によるダンス発表



職員発表



保護者発表

## <学年の活動紹介>

# にじいろ 1年生

### たくさん本を読んだ読書週間！

11月4日（水）から、2年生の読み聞かせ、秋のお話会など、読書に親しむイベントがたくさん行われました。

1年生の子どもたちは、友達や先生が紹介する本をどんどん借り、カードに記録を記入しました。一週間で20冊以上の本を読んだ子もいました。図書ビンゴにも挑戦し、しおりをプレゼントしてもらいました。これからもどんどん読書に親しみ、心を豊かにしてほしいと思います。



# ひまわり 3年生

### 素晴らしい！妙高高原地域！！

11月12日（木）、苗名滝、いもり池等の妙高高原地域に出掛け、自然の素晴らしさをたくさん見付けてきました。

苗名滝では、地上55mから流れ落ちる迫力ある滝の様子を見てきました。別名「地震滝」という名のとおり、辺りに轟音が響き渡っていました。

妙高ビジターセンターで自然や生き物についてお話を聞いた後に、いもり池周辺を散策しました。妙高高原地域の素晴らしさを満喫した一日でした。



# あおぞら 5年生

### 地域のお宝 大発見！

11月2日（月）、地域のお宝発見の旅に出掛けてました。

燕温泉では、無料で利用できる露天風呂に入りました。友達同士、裸の付き合いの時間を過ごしなが、妙高山の恵みを体感することができました。

昼食は、妙高小のランチルームをお借りし、「妙高山麓直売センターとまと」で購入した笹寿司と山餅をみんなで堪能しました。妙高ならではの米を使った郷土料理を味わい、いろいろな調理方法があることを学びました。



## 特別支援教育～はねうま学級の自立活動について～

本年度の特別支援教育において、最も力を入れて指導しているのは自立活動です。これは、決して新しいものではなく、学校教育法にも以前から「子どもたちが自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う指導のこと」と定められ、重要な位置を占めているものなのです。本年度は、特別支援学級に在籍している子どもたちが、社会に出る時に必要な力を付けていくことを目的とし、月曜日の5時間目に授業時間を特設して自立活動を行うという新しいスタイルで活動を進めてきました。

### <はねうま自然教室>

本年度のはねうま自然教室は、昨年までの年1回を年4回に増やし、国立妙高青少年自然の家に行って全ての活動を行うことにしました。目標は、①大自然の中で活動することにより、リラックスした気分になる。(心理的な安定) ②小集団におけるソーシャルスキルを学ぶ。(人間関係の形成) ③山道歩きや木登りなどで感覚統合遊びを行う。(環境の把握) ④いろいろな学年の友達がいる少人数グループで、コミュニケーションを学ぶ。(コミュニケーション)の4つに絞って活動を仕組みました。特に、④の目標を達成するために、1年生から6年生までの子どもたちを意図的に縦割りグループにし、妙高アドベンチャーを行いました。

すると、人とかかわるのが苦手な子どもたちが、積極的に友だちにかかわろうとする姿が多く見られました。また、葛藤するような場面もありましたが、その経験を乗り越えると、グループの友だちと前向きに仲良くかかわろうとする態度も育ってきたように感じました。このような経験が、子どもたちの毎日の生活に生かされると確信しています。



### <水夢ランドあらいでの水遊び・水泳とはね馬アリーナでのニュースポーツ>

新井小学校の周りには、文化施設が多く最高の立地条件です。そこで、水夢ランドあらいでの水遊び・水泳とはね馬アリーナでのニュースポーツを計画しました。目標は、①水の中での体の動かし方や、投げる、跳ぶ、走るなどの基本的な動作を学ぶ。(身体の動き) ②水夢ランドあらいやはね馬アリーナなどの新しい環境で活動することができる。(環境の把握) ③講師の先生やいろいろな友達と触れ合い、活動する。(人間関係の形成) ④講師の先生や施設の方にあいさつをし、マナーよく活動することを学ぶ。(コミュニケーション)の4つに絞って計画を立てました。特に、学年の体育では活動量がどうしても少なくなりがちなので、①の目標を達成するために、活動時間を60分にし、15分を準備や片付けとし、45分間しっかり運動する時間をとりました。

その成果があって、水が怖かった子どもが、抵抗なく水に親しむことができるようになったり、今まで泳げなかった子どもが泳げるようになったりしました。また、ニュースポーツでは、子縁人材の方から講師をしていただき、今までに見たこともない道具でユニカールなどのニュースポーツを体験しました。体を動かすことが苦手な子どもたちが、体を楽しく積極的に動かすことができるようになってきました。

